身の回りにあるきけんを知って　災害から命を守ろう

小学生ぼうさい教育ハンドブック

クイズにちょうせんしてみよう！

いろいろな災害について

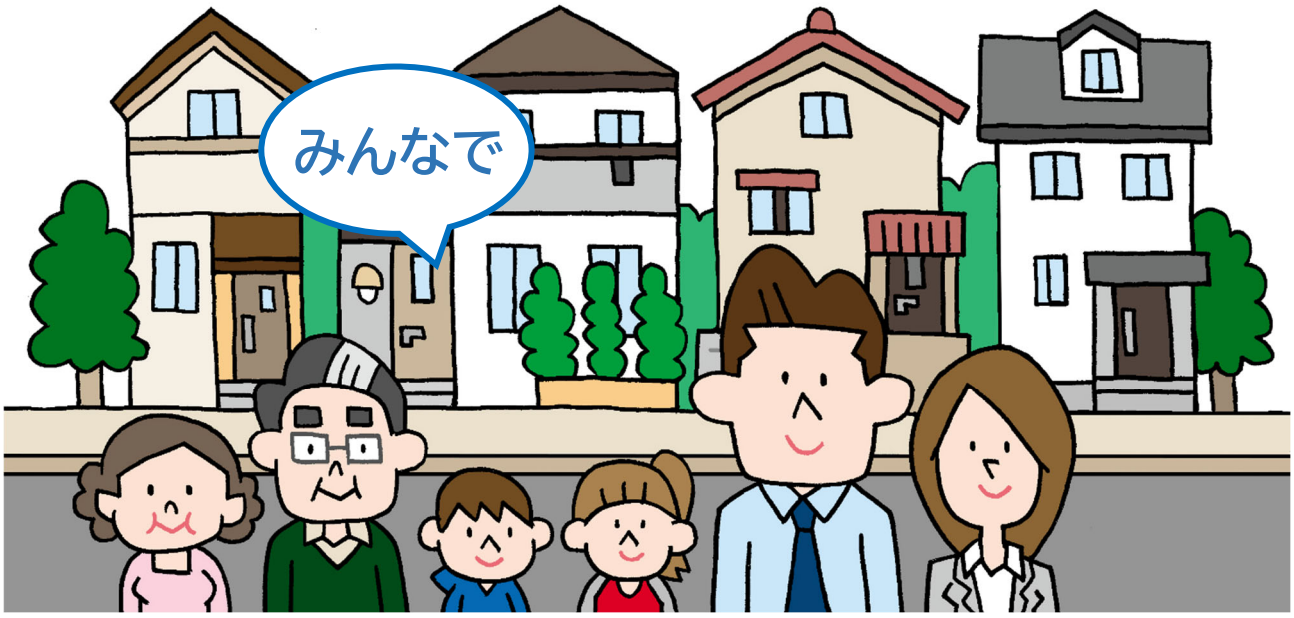
災害にそなえて何をすればよいのかな？！

災害が起きたらどうすればよいのかな？！

ひなん所でどのように生活するのかな？！

家にあるとよいぼうさいグッズ、どう使えるかな？！

答え合わせをしてみよう！



いろいろな災害について

線を引いて正しい組み合わせにしましょう。

1 地震 ・

2 津波 ・

3 火山噴火 ・

4 地すべり ・

5 がけ崩れ ・

・ア 山から、熱いマグマがふき出すこと。

・イ 急にしゃ面がくずれ落ちること。

・ウ とつぜん起こる大きなゆれのこと。たて物がこわれる。

・エ 山や谷のしゃ面がゆっくりとすべってくずれること。

・オ 海で起こるとても大きな波のこと。

6 豪雨（ごうう） ・

・カ 大きな風（おおかぜ）と雨（あめ）のこと。

7 豪雪（ごうせつ） ・

・キ 海（うみ）の表面（ひょうめん）がとても高（たか）くなること。

8 雪崩（なだれ） ・

・ク いっせいにたくさんふる雨（あめ）のこと。

9 洪水（こうずい） ・

・ケ いっせいにたくさんふる雪（ゆき）のこと。

10 台風（たいふう） ・

・コ 山（やま）のしゃ面（めん）につもった雪（ゆき）が急（きゅう）にくずれ落（お）ちること。

11 高潮（たかしお） ・

・サ 大雨（おおあめ）によって、水（みず）が川（かわ）をこえてあふれること。

災害にそなえて何をすればよいのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

	しつ問	答え	
Q1	災害はいつ起きるかわからないから、前もってぼうさいグッズを用意するひつようはない。	〇	×
Q2	災害が起きた時にどこにひなんするのかを、家族と話し合っておくとよい。	〇	×
Q3	大きな災害が起きた時のために、けいたい電話いがいのれんらく方法を考えておくとよい。	〇	×
Q4	災害時に使えるでん言ダイヤルの番号は110番だ。	〇	×
Q5	マイ・タイムラインは、一人ひとりが災害時に、「いつ」「なにを」行動すればよいかを考える計画のこと。	〇	×
Q6	自分の住んでいる地いきのきけんは、すべてハザードマップに書かれている。	〇	×
Q7	災害時ではないので、日ごろから地いきの人にあいさつをするひつようはない。	〇	×
Q8	地いきのぼうさいくん練にはできるだけ家族全員でさんかした方がよい。	〇	×
Q9	地しんが起きた時に、どの道を通ってひなんすれば安全なのか、家族で話し合っておくとよい。	〇	×
Q10	ひじょう食は、少し作るのがたいへんでも、味がよく、おいしく食べられるものを用意する方がよい。	〇	×

災害が起きたらどうすればよいのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

	しつ問	答え	
Q1	自分の住んでいるところで災害が起こりそうになると、役所から「ひなんしましょう」というじょうほうが出される。	〇	×
Q2	風が強い時には、かさがとばされてしまうきけんがあるので、雨がっぱを着て外に出る方がよい。	〇	×
Q3	大雨の時には、あとどのくらいで川があふれるかわからないから、近くの川に様子を見に行った方がよい。	〇	×
Q4	大雨のときには、長ぐつをはいていれば水がたくさんたまっているところを歩いてもよい。	〇	×
Q5	雨が止んだ後でも土しゃ災害のきけんがあるため、がけや急なしゃ面のある所には近づかない方がよい。	〇	×
Q6	ひなんする時は、できるだけ身軽でひなんしやすいように、うす着にした方がよい。	〇	×
Q7	地しんが起きた時に家の中にいるときけんなので、ゆれている間に急いで外に出た方がよい。	〇	×
Q8	学校のじゅ業中に地しんが起きた時には、つくえの下にもぐって、ゆれがおさまるのを待つ方がよい。	〇	×
Q9	へいのそばにいる時に地しんが起きたら、その場でしゃがんでダンゴムシのしせいをとる方がよい。	〇	×
Q10	地しんが起きた時は、とにかく急いでにげるためにエレベーターを使った方がよい。	〇	×

ひなん所でどのように生活するのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

	しつ問	答え	
Q1	ひなん所では知らない人がたくさんいるので、大さわぎをしてもよい。	〇	×
Q2	ひなん所は、大人が運えいしているので、子どもにはできることは何もない。	〇	×
Q3	ひなん所には、生活のきまりやルールがある。	〇	×
Q4	ひなん所はせまいので、運動したりしない方がよい。	〇	×
Q5	しょうがいのある人や病気の人など、ひなん所で生活することができない人のために、とくべつなひなん所（福しひなん所）がある。	〇	×
Q6	ひなん所では、十分な休息・すいみんを取るなどきそく正しい生活を送ることが大切だ。	〇	×
Q7	ひなん所はたくさんあるので、入りたい人は全員入ることができる。	〇	×

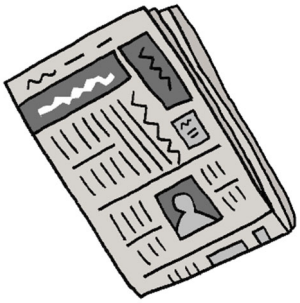
家にあるとよいぼうさいグッズ、どう使えるかな？！

線を引いて正しい組み合わせにしましょう。

1 水

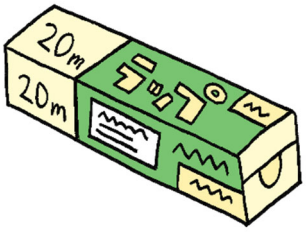
2 ビニール

3 新聞紙



4 ひじょう食

5 ラップ



ア　家でのひなん生活のために、さいていでも3日分、できれば 1週間分買いだめしておくとよい。
※アレルギー対応のものもある。

イ　お皿の上にしいて使うと、あらい物の水がせつやくできる。

ウ　1人あたり1日3リットルがひつよう。さいていでも3日分、できれば1週間分あると安心。

エ　大きいものを重ねて使うとポリタンクやバケツの代わりになる。

オ　ガスや電気が使えないときに、これがあると楽に火おこしができる。

答え合わせをしてみよう！
いろいろな災害について

1　地震

2　津波

3　火山噴火

4　地すべり

5　がけ崩れ

ア　山から、熱いマグマがふき出すこと。

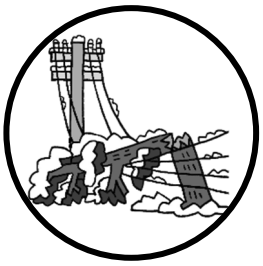
イ　急にしゃ面がくずれ落ちること。

ウ　大きなゆれのこと。たて物がこわれる。

エ　山や谷のしゃ面がゆっくりとすべってくずれること。

オ　海で起こるとても大きな波のこと。

6 豪雨（ごうう）



7 豪雪（ごうせつ）

8 雪崩（なだれ）

9 洪水（こうずい）

10 台風（たいふう）

11 高潮（たかしお）

カ 大きな風（おお かぜ）と雨（あめ）のこと。

キ 海（うみ）の表面（ひょうめん）がとても高（たか）くなること。

ク いっせいにたくさんふる雨（あめ）のこと。

ケ いっせいにたくさんふる雪（ゆき）のこと。

コ 山（やま）のしゃ面（めん）につもった雪（ゆき）が急（きゅう）にくずれ落（お）ちること。

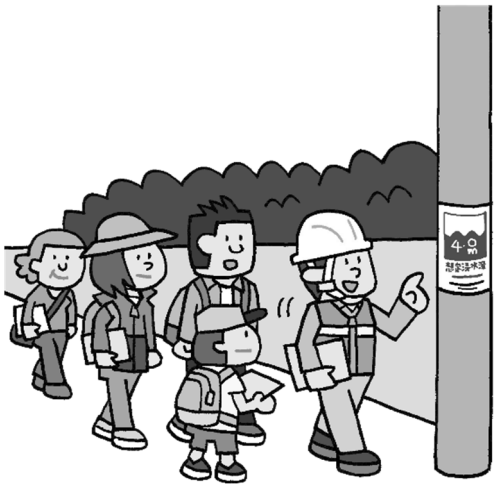
サ 大雨（おおあめ）によって、水（みず）が川（かわ）をこえてあふれること。

災害にそなえて何をすればよいのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

	しつ問	答え	
Q1	災害はいつ起きるかわからないから、前もってぼうさいグッズを用意するひつようはない。 ⇒電気やガス・水道などが止まった場合にそなえて、日ごろから飲み水や、ほぞんできる食りょうなどをじゅんびしておきましょう。	〇	×
Q2	災害が起きた時にどこにひなんするのかを、家族と話し合っておくとよい。 ⇒ひなん場所や家族とのれんらくの取り方について前もって話し合っておきましょう。	〇	×
Q3	大きな災害が起きた時のために、けいたい電話いがいのれんらく方法を考えておくとよい。 ⇒災害時は、けいたい電話が使えなくなることがあります。家族とのれんらく方ほうを考えておきましょう。	〇	×
Q4	災害時に使えるでん言ダイヤルの番号は110番だ。 ⇒災害時に使えるでん言ダイヤルの番号は171番です。家族で使い方をかくにんしておきましょう。	〇	×
Q5	マイ・タイムラインは、一人ひとりが災害時に、「いつ」「なにを」行動すればよいかを考える計画のこと。 ⇒マイ・タイムラインは、一人ひとりが災害時にどのように行動すればよいかを考える計画のことです。マイ・タイムライン作りにちょうせんしてみましょう。	〇	×
Q6	自分の住んでいる地いきのきけんは、すべてハザードマップに書かれている。 ⇒ハザードマップにはすべてのきけんがしめされているわけではありません。どのようなきけんがあるのか、家族や地いきの人とまち歩きをして、かくにんしてみるのもよいでしょう。	〇	×

Q7	災害時ではないので、日ごろから地いきの人にあいさつをするひつようはない。 ⇒災害時の助け合いには、日ごろから地いきの人と顔の見えるかん係づくりをしておくことが大切です。元気にあいさつしましょう。	○	×
Q8	地いきのぼうさいくん練にはできるだけ家族全員でさんかした方がよい。 ⇒地いきのぼうさくん練に家族でさんかして、それぞれの場所でひつようとなるぼうさいの知えやそなえを学びましょう。	○	×
Q9	地しんが起きた時に、どの道を通ってひなんすれば安全なのか、家族で話し合っておくとよい。 ⇒実さいに歩いてみるなどしてきけんな場所を知り、安全なルートをかくにんしましょう。	○	×
Q10	ひじょう食は、少し作るのがたいへんでも、味がよく、おいしく食べられるものを用意する方がよい。 ⇒ひじょう食には、ガスや電気が使えなくてもかんたんに作れるものを用意しましょう。	○	×



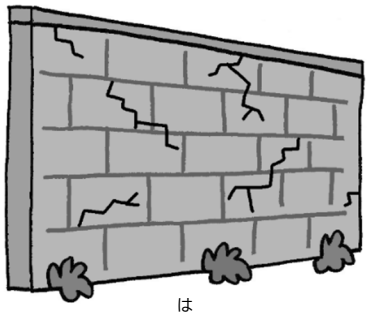
災害が起きたらどうすればよいのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

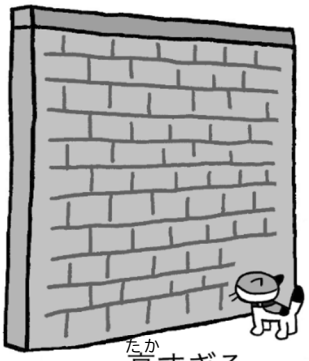
	しつ問	答え	
Q1	自分の住んでいるところに災害が起こりそうになると、役所から「ひなんしましょう」というじょうほうが出される。 ⇒役所からひなんじょうほうが出されます。まわりの人と助け合ってひなんしましょう。	〇	×
Q2	風が強い時には、かさがとばされてしまうきけんがあるので、雨がっぱを着て外に出る方がよい。 ⇒風が強い時には、かさはとばされてしまう危険があるので、雨がっぱを着て出かけるとよいでしょう。	〇	×
Q3	大雨の時には、あとどのくらいで川があふれるかわからないから、近くの川に様子を見に行った方がよい。 ⇒大雨のときに外に出るのはきけんです。ぜっ対に川や用水路に近づいてはいけません。	〇	×
Q4	大雨のときには、長ぐつをはいていれば水がたくさんたまっているところを歩いてもよい。 ⇒長ぐつの中に水が入ってしまうと重たくなって歩くことができなくなります。ひなんする時には運動ぐつをはきましょう。	〇	×
Q5	雨が止んだ後でも土しゃ災害のきけんがあるため、がけや急なしゃ面のある所には近づかない方がよい。 ⇒雨だけでなく、地しんの後にも土しゃ災害のきけんがあるため、近づかないようにしましょう。	〇	×
Q6	ひなんする時は、できるだけ身軽でひなんしやすいように、うす着にした方がよい。 ⇒けがをしないように、長そで、長ズボンを着てひなんしましょう。火事が起きるかのうせいがある時には、もえにくいそざいのものがよいです。ぼうさい頭きんやヘルメットをかぶって頭を守りましょう。	〇	×

	しつ問	答え	
Q7	地しんが起きた時に家の中にいるときけんなので、ゆれている間に急いで外に出た方がよい。 ⇒あわてて外にとび出すなど勝手な行動はせずに、ゆれが止まってから、ひなんじょうほうにしたがって行動しましょう。	○	×
Q8	学校のじゅ業中に地しんが起きた時には、つくえの下にもぐって、ゆれがおさまるのを待つ方がよい。 ⇒あわてて外にとび出すなど勝手な行動はせずに、先生の指じにしたがって行動しましょう。	○	×
Q9	へいのそばにいる時に地しんが起きたら、その場でしゃがんでダンゴムシのしせいをとる方がよい。 ⇒ブロックべいはたおれてくるときけんなので、まずは安全な場所にひなんしましょう。	○	×
Q10	地しんが起きた時は、とにかく急いでにげるためにエレベーターを使った方がよい。 ⇒エレベーターはとじこめられてしまうきけんがあるため、たて物からのひなんには使わないようにしましょう。	○	×

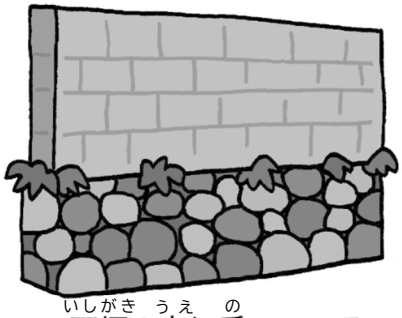
危険なブロック塀の例



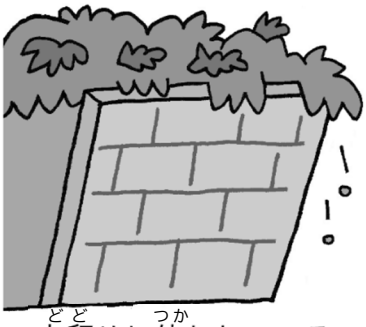
ヒビが入っている



高すぎる



石垣の上に乗っている



土留めに使われている

ひなん所でどのように生活するのかな？！

正しいものに〇、間違っているものに×をつけましょう。

	しつ問	答え	
Q1	ひなん所では知らない人がたくさんいるので、大さわぎをしてもよい。 ⇒ひなん所では大さわぎをしてはいけません。みんなにあいさつするなど気持ちよくすごせるようにしましょう。	〇	×
Q2	ひなん所は、大人が運えいしているので、子どもにはできることは何もない。 ⇒ひなん所は、たくさんの人が生活するところで、大人だけでなく子どももすごしやすいように、子どもの意見を反えいさせることも大切です。ひなん所生活のなかで、自分たちにできることを見つけて、せっきょくてきにお手つだいをしましょう。	〇	×
Q3	ひなん所には、生活のきまりやルールがある。 ⇒ひなん所には、生活のきまりやルールがあります。きまりを守って生活しましょう。	〇	×
Q4	ひなん所はせまいので、運動したりしない方がよい。 ⇒ひなん所では、運動ぶ足になりやすいので、せっきょくてきに体を動かしましょう。	〇	×
Q5	しょうがいのある人や病気の人など、ひなん所で生活することができない人のために、とくべつなひなん所（福しひなん所）がある。 ⇒しょうがいのある人や病気の人など、ひなん所で生活することができない人のために、とくべつなひなん所（福しひなん所）があります。	〇	×
Q6	ひなん所では、十分な休息・すいみんを取るなどきそく正しい生活を送ることが大切だ。 ⇒ひなん所では、十分な休息・すいみんを取るなどきそく正しい生活を送り、日じょう生活を取りもどすことが大切です。	〇	×

Q7	ひなん所はたくさんあるので、入りたい人は全員入ることができる。 ⇒ひなん所に入りたい人がたくさんおしよせると、ひなん所には定員があるので、入れないこともあります。家の近くのひなん所のしゅうよう人数をかくにんし、ひつような場合には、ふく数のひなん場所を考えておきましょう。	○	×

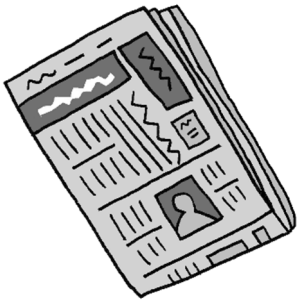
家にあるとよいぼうさいグッズ、どう使えるかな？！

線を引いて正しい組み合わせにしましょう。

1 水

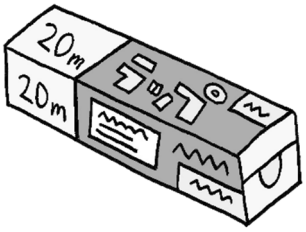
2 ビニール

3 新聞紙



4 ひじょう食

5 ラップ



ア　家でのひなん生活のために、さいていでも３日分、できれば １週間分買いだめしておくとよい。
※アレルギー対応のものもある。

イ　お皿の上にしいて使うと、あらい物の水がせつやくできる。
他にも、くしゅくしゅと丸めて使うとスポンジ、おなかにまくとはらまきの代わりになります。ドアやまどガラスにはって油せいのマジックペンで書きこめばでん言板になります。

ウ　1人あたり1日3リットルがひつよう。さいていでも３日分、できれば１週間分あると安心。
５人家族の場合には、４５リットル(3日分)～105リットル(1週間分)がひつようです。

エ　大きいものを重ねて使うとポリタンクやバケツの代わりになる。
他にも、お皿にかぶせて使うと、あらい物の水がせつやくでき、手にはめれば、けがの手当てやよごれ物をあつかう時の感せんしょう対さくにもなります。

オ　ガスや電気が使えないときに、これがあると楽に火おこしができる。
ビニールぶくろと合わせてかんたんなトイレが作れます。スリッパや上着を作って寒さをふせぐことができます。おりたたむとお皿やコップとして使えます。